

## 社会科「問いを立てる授業とは ～生徒からの問い、教師からの問い～」

宮崎西高等学校附属中学校

指導教諭 木幡 佳子

### Q1 本時におけるICT活用のポイントについて

- ①模擬裁判の判決、そこに至るまでの過程(根拠集め)をグループで討議した。根拠を集める際は、1人1台端末でネット検索を行い、証言内容の真偽を調べた。
- ②1人1台端末を用いて、グループごとにパワーポイントを作成した。パワーポイントはグループ内で共有することができ、共同で1つのパワーポイントを作成することができた。発表原稿もタブレットで作成した。
- ③JAGAを活用し、生徒が自宅で作業を行くことも可能とした。作成したパワーポイントは、JAGAで教師に送り、内容の点検を行った。
- ④パワーポイントを使って、グループごとに発表し、ディベートを行った。他のグループの発表内容をタブレットでメモするのも可とした。

### Q2 ICTを活用した授業により、自身の授業が変化した点について

- ・すぐにネット検索ができるため、その場で生徒と疑問を解消することができるようになった。教師が教える一方的な授業ではなく、教師と生徒と一緒に授業を創る共同者のような関係になった。
- ・生徒によるネット検索、パワーポイントの活用が可能になり、ディベート内容の質が深まり、社会について考え続ける生徒の育成をより肌で感じるできるようになった。
- ・ICTを上手に活用しながら教師でしかできないことを意識するようになった。

### Q3 ICTを活用した授業により、子供の学びが変化した点について

- ・これまでパブリック・ディベートの授業を行ってきたが、立論内容が口頭もしくは、画用紙に書いてポイントを提示するのみで聞く方に頼っていた。パワーポイントを使うことによって、可視化できるようになり、聞く側が理解しやすくなったとともに、説明する力もついてきた。
- ・パワーポイントを作成できなかった生徒も、グループでの協働により全員が作成できるようになった。
- ・立論内容を手書きではなく、Wordで作成することができるため、書き直しがしやすくなった。
- ・他のグループからの質問に対して、パワーポイントを振り返りながら考えることができるので、再提案の時に、どこをどう変えたのかが明確になった。

### Q4 その他、ICTを活用した授業における留意点について

- ・自由にネット検索やチャットができるので学習内容とは関係のない内容を見たりしていたりする可能性がある。授業中、生徒40人を教師1人で見るのは難しい。生徒の良心にゆだねている状態である。
- ・現在本校では、生徒が自由にタブレットを使用できる環境にしている。昼休みや放課後等を使って、パワーポイントを作成したり検索をしたりしている。教師の目が届かないところでの使用には留意が必要である。
- ・タブレットだけに頼らず、紙に書く時間の確保が必要である。

